

氏 名	田中 眞里子
学位の種類	修 士 (看護学)
学位記番号	修 士 第 1 5 4 号
学位授与年月日	平成25年3月7日
学位論文題目	老年看護学実習において後期高齢患者が担当学生に 抱く心理

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	159	(ふりがな) 氏 名	た な か ま り こ 田 中 眞 里 子
修士論文題目	老年看護学実習において後期高齢患者が担当学生に抱く心理		
<p>目的：老年看護学実習において学生の受け持ちになることに同意した、後期高齢患者が、実習中に担当学生に対しどのような心理を抱いたのかを明らかにし、後期高齢患者の心身の負担を軽減する教育方法を検討していく資料とすることである。</p> <p>方法：老年看護学実習終了後に、インタビューの同意が得られた後期高齢患者に対し、倫理的配慮については、療養中であることから十分に配慮し研究協力は自由意志であるためいつ辞退しても、医療や看護のサービスの低下や不利益がない対応を保證することを伝え、半構成的面接を行い、得られたデータを質的帰納的方法によって分析を行った。(滋賀医科大学倫理委員会、承認番号：23-157)</p> <p>結果：研究に協力の得られた、後期高齢患者は 18 名であった。研究協力者の語りから分析の結果、464 のコードより 8 のカテゴリー、36 のサブカテゴリーを抽出した。 後期高齢患者は、【受け持ちを引き受けた心理】については、学生の役に立ちたい、何もわからないけれど学生が世話をしてくれるので承諾するなど、深くは考えずに受け持ちを受けたが、明るい学生がしてくれる援助が心待ちになり、学生と互いに勉強し合うような気持ちになって行き、【実習に対する理解と受け止め】は大きく変わっていった。学生の姿をみていて、良い看護師になってもらいたいと、自分の経験や知恵を伝え【看護師になる学生へのエール】を送った。また、自分のために一生懸命に世話をしてくれる【学生の援助に対する感謝】の気持ちと、いつもそばにいて励ましてくれる学生が支えとなった。学生は優しいが、優しいことが看護師の仕事だと思っているのではないかと不信をもったが、自分だけではなく他者にも配慮ができる【学生の行動に対する快・不快】も感じながら、世話をしてくれる学生を受け入れていた。一生懸命にしてくれる【学生の未熟な技術に対する期待と我慢】を感じながら、世話をしてくれる学生がかわいそうにも思えた。学生との会話では話す内容も考えながら、難しい話は子ども相手に話しているのだから意味が分かっていないようだった。しかし、日々の会話は楽しく若い子と話すのは良いと思った。【コミュニケーションに対する楽しさと困惑】を感じながらも、学生との関係は、良い体験として残り。多くが【実習終了時の学生に対する患者の寂しさ】を語っていた。</p> <p>考察：後期高齢患者は担当学生が付くことに対してイメージが付きにくく、「自分は何をしなくてはいけないのかと」不安になるが、看護師の具体的な説明で、イメージしやすく協力できるかできないかの判断がしやすいのではないかと考える。「看護師と同様にしてくれる」「どこにでも付いて来てくれる」という事は介護が必要な後期高齢者にとっては担当学生が付くことで自分の援助をしてくれるという事に期待を寄せていることが考えられる。また、「学生が世話をしてくれるのであれば」と受け持ちをすることに同意してくれるが、「学生が次から次に、あれしましょう、これしましょう、言うからたまにわずらわしいことがある」学生の実習優先の行動に対して患者の不快感や負担感が増している。患者は身体的な疲労もさることながら、精神的な気疲れも学生により引き起こされていた事がうかがえた。</p> <p>総括：後期高齢患者に安心して快く受け持ちを承諾してもらうための説明の工夫についても考えて行くことが必要であると考え。また、受け持ち期間中も心身の負担が増強しないように、看護職者、教員は連携を取り、患者に関心を寄せインフォームド・コンセントをする必要があると考えられた。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。